

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（販売促進担当）	・アパレルは不振であるが、雑貨は前年同月を上回る状況である。この勢いが続けば全体に良い影響を与えてくれる。
		自動車備品販売店（店長）	・来客数・客単価共に前年より上がってきており、この傾向が続く。
		都市型ホテル（従業員）	・企業のグループ単位の予約が増加しており、体力回復が感じられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏休みの宿泊の予約も好調で、満室の日数の増え具合が前年と比べても早い。
		旅行代理店（経営者）	・先行きは不透明であるが、参議院選挙が終わり、これから本格的な旅行シーズンに入るので、今まで控えていた分、増加するのではないかと。
		ゴルフ場（営業担当）	・少しずつだが会社支払の売掛が多くなってきた。先の予約も増えている。
		競艇場（職員）	・10月に、記念レースのG1競争があることもあるが、入場者及び売上に例年以上に伸びがみられる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街自体に新規店舗出店の予定もなく、現状から良い方向へ変わることもない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・客の表情は少し明るくなった気もするが、依然、商品は動かない。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・企業関係の新しい注文が少なく、前向きな動きが見受けられない。
		百貨店（営業担当）	・消費者の必要な物を選ぶ目が一段と厳しくなっており、商品によって、好不調に格差がでてくる。
		百貨店（売場担当）	・春もそうであったが、シーズンの立ち上がりが厳しく、秋以降についても厳しくなる。寒くなり、防寒物が本格的に動き出す時期が1つの鍵となる。
		百貨店（購買担当）	・先月同様、少し早めに秋物を投入して、クリアランスの商材不足を補充しているが、秋物の動きも鈍く先行きがみえてこない。また7月のイベントも予想以上に集客につながらなかったため、9～10月に大きなイベントを予定しているが、苦戦を強いられる懸念が大きい。
		スーパー（店長）	・ガソリン代の更なる値上げや一部食品品の値上げ、また紙類の値上げなど、取り巻く状況にマイナス要因が多い。また、新規ディスカウントストアオープンによる価格競争の激化も考えられ、厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・ここ数か月、販売点数も来客数も前年比102～103%と推移しているので、2～3か月先もこのままの状態が続く。
		スーパー（店長）	・この夏の猛暑予測が平均気温程度と変わり、季節商材について一品単価の下落が予想される。
スーパー（店長）	・客が収入と支出のバランスを食費で調整している傾向が見受けられる。税の問題・ガソリンの問題・食材の値上げの問題等で、食費の構成比が上がるということは考えられない。		
スーパー（総務担当）	・ちょっと上のランクの商品が売れないため、客単価が上がらない傾向は続く。衝動買いが減って目的の物しか買ってもらえない。		
スーパー（管理担当）	・3か月前から価格強化の販促を組み、3か月前と比べて来客数が120%と伸びたことで売上金額も伸びているが、ここ最近伸び幅がなくなっている。		
スーパー（販売担当）	・お盆用の商品は伸びると思われるが、中国産などの食品の安全に対して客の目が大変厳しく、購入には非常に慎重になっており、相殺して変わらない。		
コンビニ（エリア担当）	・後半は出店の予定も若干はあるが、全般的には売上等があまり回復していない。今後もこのままの状態が続く。		
コンビニ（エリア担当）	・競合店の出店が続く予定であり、売上の伸びが期待できない。		
コンビニ（エリア担当）	・今月は前半は悪かったが、後半は暑くなり盛り返した。しかし根本的に売上状況は悪く、1人当たり売上点数や客単価のダウンはこれからも続く。		
衣料品専門店（地域ブロック長）	・今後は気温も上がってくると思うが、バーゲン期に入り一気に単価が低下するので、全体的には売上が増加しにくい状況になる。		

	乗用車販売店（経営者）	・原油価格、ガソリン価格の高値も引き続くようであり、参院選後の政局も不安定なような感じを受け、良くなる要素が見当たらない。
	乗用車販売店（サービス担当）	・メーカーの支援策、新型車両の投入、モデルチェンジ等の良くなってくる材料が今のところ見当たらない。
	自動車備品販売店（経営者）	・来客数は低調であるとは言え、タイヤ、オイル、バッテリー等の補修商品や高額品のナビ等は堅調に動いており、今後には期待できる兆しもあるが、当面は現状水準の維持が精一杯である。
	高級レストラン（スタッフ）	・9月の予約はまだまだ少なく、10月に入ってやっと少し予約が増加しており、月によってかなり差がある状況になっている。
	一般レストラン（経営者）	・先月今月と前年をクリアしていないが、夏休みに入ってから数字は前年比100%をクリアしており、全体的には今後あまり変わらない。
	一般レストラン（店長）	・今のところ、予約件数・来客数の動きをみても横ばい状況なので、何か大きなイベント等ない限り、このまま横ばいの状況で推移する。
	観光型ホテル（経理総務担当）	・夏休みに入り、家族旅行や各種レジャーには、ある程度のお金を使うものと思われるが、大きな期待はできない。地方は、首都圏や大企業のような好況感はない。
	タクシー運転手	・客の話は、年金と介護保険の不安ばかりであり、これはこれから続きそうである。
	タクシー運転手	・客単価が伸びない状態が、ここ1年来続いている。7月は各種イベントがあったので、それがプラス要因になったが、将来的にもイベントが多くないと、タクシー業界は厳しい。
	通信会社（企画担当）	・商品単価の下げ止まりもあるかも知れないが、サービス内容の吟味をして、購入に時間が掛かる傾向は続く。
	テーマパーク（業務担当）	・夏から秋にかけて大規模イベントを控えており、春から続いている前年比での回復傾向が、今後もしばらくは続く。
	設計事務所（経営者）	・まとまった物件は大手が取るので、我々中小企業は仕事量も少ない状況がこれからも続き、景気が上向き気配はない。
	設計事務所（経営者）	・原材料価格が値上がりしている中、少しずつ製品の価格も高くなってきているため、建築主からの発注もしばらく様子見となる。
	住宅販売会社（販売担当）	・展示場イベントへの来場数も前年比と増減無く、また売上も、あまり増加しておらず、この状態が続く。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街や一般小売店は、大型店に客をとられ、空き店舗になっている。中小小売業は廃業に追い込まれる店が多く回復の見込みはない。まちづくり3法が実施されるが、遅すぎる。
	商店街（代表者）	・郊外にショッピングモールができ、商店街のなかで高齢化が進んでおり、いずれにしても大変良くない状況が続いている。中小零細の小売業はこれからどうしようもなくなる。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・同業者や飲食店関係の取引先などの状態をみても好転の材料がない。購買意欲が低調なため、今後、お盆の帰省客などで一時的には活発化しても、8月中旬以降は急速に冷え込む。
	百貨店（販売促進担当）	・9月には郊外ショッピングセンターが倍に増床してオープンする。市内の個人商店も現店舗を閉店しショッピングセンターへ出店する店もでており、ますます、中心市街地の空洞化が進む。更に全体の消費が上向いてくるとは考えづらい。
	百貨店（売場担当）	・ヤングキャリアゾーンの売上が悪く、前年2けた伸ばしたブーツの売上は、今年は取りきれない。原油高、円安と中国の人件費増が商品単価を跳ね上げ、客の目に見える形で秋物に現れる。
	百貨店（販売担当）	・駅構内に新たな商業施設が入り、メンズ・レディースの人気ブランドが導入されるため、来客数に一時的な影響を受ける。
	スーパー（店長）	・食品の原料偽装、中国製品からの客離れ、原油の高騰など、食品を扱う立場としては現在のところ良くなる材料が見当たらない。
	スーパー（財務担当）	・原価の引上げ等があり、販売価格に転嫁出来にくい状況で利益率の低下がある。
	コンビニ（エリア担当）	・競合の出店及びドラッグストアの出店により、更に客足は遠のく。既にオーバーストア状況になっており、しのぎを削らなければならない状態である。

		コンビニ（エリア担当）	・住民税・ガソリン高騰など個人消費に逆風の要因があまりに大きい。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・値段が安いからといって購入する客さえも減少しており、本当に必要なものしか購入しない、無駄なものは一切買わないという客が増えている。この状況はしばらく続く。
		家電量販店（店長）	・例年に比べて気温も不安定であり、競合店の動きもあり、この先、厳しい状況が続く。
		家電量販店（店長）	・薄型テレビ等、デジタル家電の伸び悩み、白物の販売不振はまだ続く。
		乗用車販売店（統括）	・顧客である地域の中小企業の社長たちとの懇談でも、ほとんどの人がこれからも厳しいと言っている。
		乗用車販売店（統括）	・ガソリン代の値上げや食料品などの値上げなどにより、買い控えが起こったり、値引きを要求されたりで、これからもあまり良い商売ができない状況が続く。実際、自分でも大きな買物には消極的になる。
		住関連専門店（広告企画担当）	・地方のマーケットでは、高額単価の商品を購入する客の数が圧倒的に少なく、これからも厳しい状況が続く。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・地方は所得が増加していないのに、ガソリン代を始め、いろいろな物価が値上がりし、売上にまともに響いており、この状態が続く。
		その他専門店〔スポーツ〕（経営企画）	・値上げ商品がこれから増えてくると、更に買上点数の減少につながる。
		一般レストラン（店長）	・ファミリー層の減少が響いている。さらに、原油高で仕入れコストも徐々に上がってきており、利益も圧迫している。今後もコスト高は避けられない。
		都市型ホテル（経営者）	・前年同期との比較で、予約率が低くなっている。
		通信会社（通信事業担当）	・近くに大型電器量販店が開店したため、タイアップして様々な販促の手段をとる大手のサービスへの乗換えが増加し、新規客もそちらへ流れる可能性がある。
		通信会社（販売企画担当）	・夏商戦期も終わり、これから新商品の発売等の目立ったトピックスもない。
		美容室（経営者）	・同業者同士で話し合っても、この夏の売上が伸びないと、この先見通しが暗いという話ばかりである。
		住宅販売会社（従業員）	・原材料の値上げ傾向、受注件数及び金額の減少傾向が見受けられ、しばらく続く。客の動きも今一歩積極的でない。
	悪くなる	スーパー（店長）	・改装中の近隣の商業施設のリニューアルオープンが、11月初旬の予定となっているため、あと数か月は商圏として来客数が減少し続け、厳しい状況が続く。
企業 動向 関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・クライアントからの受注が、9～10月にかけて増強の要請があり、景気は良くなると予想される。
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・次の新製品については、大型の受注がある。
		輸送業（統括）	・急激には回復しているとは思えなが、少しずつは良くなっており、当面はこのような状態が続くと思われる。
		その他サービス業〔清掃具レンタル〕（情報管理担当）	・夏を迎え、今年は水の味に関心を持つ客が増えてきているので、浄水器関連が伸びる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・新規引き合い案件も入っており、現在の生産量は今後も確保できる。
		鉄鋼業（総務担当）	・継続して自動車、造船、産業機械向けの好調な需要を受け、フル生産が継続している。しかしながら、中国の鋼材輸出拡大や米国経済の先行不透明感などの憶測も流れており、注視が必要である。
鉄鋼業（総務担当）		・ガソリン等物価も上昇基調にあり、コスト増につながっている。製品値上げでカバーしきれない状況が続く。	
金属製品製造業（総務担当）		・2～3か月先は現在と同様の高水準な状況（フル生産）で推移すると予想され、特段大きな変化は見られない。また得意先からの増産要請と工作機械や造船業界の強い需要が決定要因となり、中長期的な観点から大規模の設備投資を決定し、来年5月の工事完了予定で進めている。不安要素としては、鉄原料を中心とした価格の高騰がある。	
電気機械器具製造業（総務担当）		・自動車関連は、先行き相変わらず好調な受注が入っており、多忙の状況が続きそうである。携帯関連は、秋モデルまで少し落ち着いた状況となっている。	

	建設業（経営者）	・発注者が官も民もい縮しているようで、仕様変更を命じておきながら、適切な設計変更に応じないというような状況が多く起こっている。これが、下請け、孫請けにまで影響して、非常に厳しい状況が今後続く。	
	通信業（営業企画担当）	・インターネットアクセス回線を利用した企業ネットワークなどの実態が見えない。営業訪問先からの情報においても、その顧客に最適な商品については決め手を欠いているといった状況が続いており、通信業界全体の苦戦は当面回復見通しが立たない。	
	通信業（部門長）	・芳しい業績があったという客の声を聞かない。自動車製造業が好調であるが、海外市場に依存しており、関連企業も特需の意識はなく、好景気とはいえない状況が続く。	
	金融業（営業担当）	・不動産は動く気配が出てきている。山口市・宇部市の工場団地の進出の話も毎月のように出ているが、単なる流通拠点というだけで、地元が潤うような企業進出にはなっていない。地元での雇用、受注が広がる話は全く出でならず、当分今の状態が続く。	
	金融業（業界情報担当）	・米国経済の鈍化懸念はあるが、欧州・アジア圏の好調から世界景気はおおむね良好が続くとみられ、当面は高水準の受注が続く見込みである。	
	広告代理店（営業担当）	・地場企業経営者の話には『地方は当分変わらない』とのあきらめ感のようなものが漂っている。また選挙後の動向が見えず、当面変わりようがない。	
やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・食品関係の様々な事件が起こっており、それが関係しているのか、単価が不安定であり、しばらく続きそうである。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・特に北米を中心とした海外向けの自社製品の売上に陰りが見え始め、減少傾向にある。	
	電気機械器具製造業（広報担当）	・これからの受注が十分確保できる見通しになっていない。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量・生産高共に横ばいの状況が続く。しかし、原材料価格の値上がりや金利負担の増加・社会保険料の負担増などコストアップ要因が多く、非常に厳しい。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・原油が高止まりした状態で何とか保っていたが、再度の値上げで、材料メーカーや海外取引先からの値上げ要請が後を絶たず、ある程度の受け入れざるを得なくなっている。価格の値上げも難しい情勢であり、今後の利益の大幅な圧縮が見込まれる。	
	会計事務所（職員）	・建設業の不振は、今後もまだ続くとみる経営者は多い。さらに、燃料費の増加により物流コストがアップしているため、一部には材料費の値上げを提示されているところもあり、状況が好転するとは思えない。また製造業は堅調だが、自動車メーカーの意向次第ではどうなるか判らない面もあり、先行きは必ずしも安泰ではない。	
	コピーサービス業（管理担当）	・紙価格の高騰が、これからいよいよ利益を圧迫してくる。	
	悪くなる		
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・秋以降に新卒採用説明会を開催して欲しい旨の要望の声等がある。
		職業安定所（職員）	・学卒求人の受理状況を見ると、製造大手数社が好調であることから、関連企業からも求人が増加している。現段階で求人受理件数は変わらないものの、求人数については既に昨年度の合計数をはるかに超えている。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しており、多少景気回復の兆しが見えてきている。しかし求人内容を見ると、非正社員求人やパート求人が多いため、就職者数はあまり変わらない。
		職業安定所（雇用開発担当）	・労働市場における新規求人は前年同月比で微増、新規求職は微減となっている。対前月でみると、新規求人・求職共に減少しており、例年の傾向以上に求職者側の動きが鈍くなっている。これは、労働市場が停滞期に入ったものでなく、夏季賞与の支給前（支給済事業所も多いと思われる）には採用を抑えがちになるため、今後はその反動で求職者側の動きが活発になるその前触れとも言える状況である。また、管内事業所においては、通年商品に加え秋冬等の季節商材の製造に拍車がかかり、スポット的な雇用確保も必要になるとの情報も聞いている。このため8月益明けから9月へかけて、求人・求職に大きな動きがある。

	学校〔短期大学〕（就職担当）	・企業に応募期間の延長、2次募集等するケースが増える傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・更に中小企業の人材不足感が高まり、企業からの依頼は増加する可能性があるが、一方で派遣業界にとっては登録スタッフの確保が更に深刻な問題となってくる。
	職業安定所（職員）	・一向に上向かない景気の影響で、多くの業種で解雇等事業主都合離職者の発生事例が相次いでおり、求人面でも都会地とのギャップが際立っている。
やや悪くなる	○	○
悪くなる	-	-